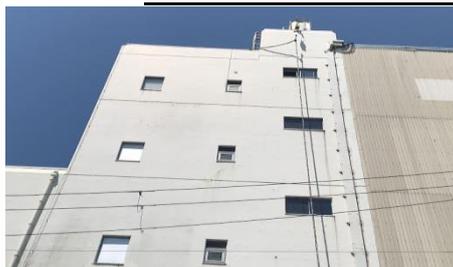


2021.7月

# 銀の汗 Again

A面

## 大阪:マルハニチロ南港センター



マルハニチロ南港センター



UN4号機配備



屋上2,600㎡



発注ミス汎用缶90セットあり



「UNでパッチリ」(株)日建テクノスの皆さん



汎用缶缶切りシドラム缶へ移し替え

天気予報を注視し、やっと日程が確定した大阪は住之江区にあるマルハニチロ物流南港センター2,600㎡の現場、前日に高速を飛ばし夕方現場を確認したオペレーターは、そこに90セットの汎用缶(ドラム缶3セット分)があることに驚きました。なにやら手違いがあつて納められ当日使用しないと翌日は遠くへ場所移動しないとイケない状況でした。そこで翌朝、予想を超えるいきなりの30度超えの気温の中、14:30迄材料を流し、その後、職人様1時間休憩していただいた後

その日使用した空ドラム缶へ共に、汎用缶缶切りして材料をおさめる作戦に出た百戦錬磨のオペレーター最終的に80セットを切つて翌日に備え、無事施工を終える事ができました。

「ホンマありがとう、おおきに」と共にヘトヘトになりながらも、UNマシンのパフォーマンスを発揮し、E難度の技を決めたオペレーターは、施工を終えホテルでぐっすり眠り、翌朝東京に向けUN4トトラックのエンジンをまわしました。



### シーケンサー・流量計再設定

#### 梅雨時期は品質UPの活動強化



5号機:流量計調査



3号機:シーケンサー再設定

UNマシンはコンピューター制御で1:2などの材料粘度等の設定を入力して吐出致します。日々のメンテナンスはもちろんの事ねじ1本、コード1本に及ぶ細かい設定までこの梅雨時期を利用して確認作業を行います。来るべき熱中症対策にUNの夏が目の前です。

### 職長・安全衛生研修会

#### 梅雨時期は品質UPの活動強化



5/24職長研修:石川OP



5/28職長研修:曾根・松田OP

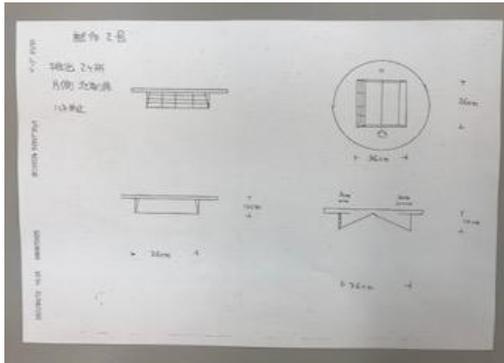
5月2回にわたり、現場職長の研修会が開催されUNマシンオペレーターも3名が最前列で受講しました。Zoomで全国配信されましたが、OPはLIVE会場最前線で眠らずに受講。UN現場入場において時々職長教育の有無を記す欄がありますが、これからは受講証を明示し有と〇印をつけます。

2021.7月

# 銀の汗 Again

B面

## やり直しファンタステックじょうご2号



ラフスケッチ



2号試作品表



2号試作品裏

銀の汗20号・21号でお伝えした、試作第2号の「産廃廃液ファンタステックじょうご2号」が、『できました』と連絡を受けドライバーが伺ったところ、(タタキ台図面と)一部下の部分が穴と同じサイズになっている失敗試作品となっていました。世の中に無い物ですから製作側も大変ですが、実際に使用確認するドライバーも1号を見せて改良を説明しますがなかなか正しく伝える事は難しいことを再確認しました。世に無いものを考え、作り、試し、改良し、試す、この作業を繰り返し、世の中に出ている全ての商材は存在しています。

ほんの少しでも、そんな活動にたずさわることが出来たドライバーは、「ものづくりって大変ですよ」と、4トンコンテナに産廃ゴミを手でドンドン積み込んでいきました。

2号再度試作品製作にはいりました！



3月産廃会議にて  
発想のおおもと  
粘土でじょうご説明するドライバー

## アスリートが奇跡を起こす



2016年リオデジャネイロの夏季オリンピックで日本は歴代最高の41個のメダルを獲得  
過去22回参加した累計のメダル数は163個、1大会平均7.4個  
日本の人口1億2千万人の内、15歳から34歳の成人男女人口は約2600万人  
確率で言うとメダリストになるには約300万人の内1名、近年だとざっくり100万人に1名の  
選ばれし、アスリートです。  
メダルというのはそれほど希少性の高い価値のある人生を懸けたメダルとなっています。

スポーツには奇跡的な結果で感動を与える力があります。  
そして後からいかに血のにじむ汗を流し続けてたかを知ることになります。  
我々推進部も日々の小さな積み重ねで、産廃ゴミの積み込みで又UNマシンの施工においてお客様に感動を与えることができないか銀の汗を流し挑戦してまいります。

(参加賞希望)

UNマシン.COMサイトが起ちあがりました  
ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています

[www.un-machine.com](http://www.un-machine.com)

yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省カ化など)

銀の汗バックナンバーも掲載

UNマシンにて検索

### 【sweat of silver】



今から約50年前の1972年2月札幌オリンピックが開催されました。そのテーマソングとして  
1. イベントが終わっても長く歌い継がれる物 2. オリンピックを待ち焦がれる札幌の人達の心情を表している事 3. 屋根裏の落第坊主がギターをつま弾いて歌え、何千人もの合唱に耐えることを条件に、作詞家が2週間以上も悩み歌詞を作りました。

そして名曲「虹と雪のパラード」が完成し、トワ・エ・モアが歌いました。(古〜っ)

おさな心にもメロディーラインを覚えており、たまたまYouTubeで聴く機会がありました。

1番のさびに向かう歌詞に「あふれる旗、叫び、そして唄、ぼくらは呼ぶ、あふれる夢にあの星たちのあいだに」があり、2番のラインには「あれは夢？か？それとも恋 ぼくらは書く、いのちのかぎりいま太陽の真下に」とあります。旗・叫び・唄の並びと単語に感動し、2番の夢・カ・恋の組み合わせも

素晴らしいと感心しました。そして2番で「ぼくらは書く、いのちのかぎり」と「書く」が出てきました。一体何を書くのでしょうか？

いまから約2万年前のヨーロッパ、ラスコーの洞窟で祖先が圧巻の壁画と彫刻を描いていました。日本では約1300年前に古事記が記されました。書く行為は万物の霊長人間にしかできない行為です、洞窟に壁画を描いた先人も、古事記を書いた先人も後世の為を思って書いたのではなく、ただ書きたかったというのが本当では無いでしょうか？そしてそれを読んだ人に絶望から希望へ、憎しみから愛へ、泣き顔から笑顔へ転換することができる人類にしか持ちえないツールのような気がします。「ぼくらは書く、いのちのかぎり」 そう全ての世界の人々が自身の生きた壮大な叙事詩を書く、ひとりひとりが主人公なのだと思っているようにおもえるのです。そして、今から50年後にわたしは東京2020オリンピックの歌を高らかに唄いたいと思います。

(おそらくこの世にはいませんが・・・)